

資料No	遺跡名	遺跡No	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形態	大きさ	完形/欠損	石材	使用痕の有無
1	鎮守ヶ迫	26	8.7	4.1	0.6	40.0	ⅢC ₂ 類2a種	小型	完形	頁岩	○
2	外川江	15	10.7	3.5	0.5	32.9	ⅢC ₂ 類1a種	小型	完形	粘板岩	○
3	外川江	15	9.8	3.3	0.7	31.7	ⅢC ₂ 類1c種	小型	完形	粘板岩	○
4	外川江	15	4.4<	4.1<	0.6	15.2<	Ⅲ類有孔	—	欠損	粘板岩	○
5	上加世田2	12	6.0<	3.9<	0.6	18.7<	ⅢC ₂ 類2c種	—	欠損	頁岩	○
6	東田	65	3.2<	4.5<	0.5	13.5<	ⅢC類2c種	—	欠損	ホルンフェルス	○
7	東田	65	5.9	3.8	0.7	20.9	ⅢD ₂ 類2種	—	未完成	ホルンフェルス	×
8	池之頭	41	4.3<	4.1<	0.5	9.9<	ⅢC類1e種	—	欠損	粘板岩	×

(形態、大きさは斎野 2002の分類基準による)

第2表 分析資料計測表

加世田川がつくった沖積地を臨む標高25mのシラス台地の末端部に位置している。同時期(弥生時代中期)の遺物として、甕形土器、壺形土器が出土している。

資料No 6, 7は肝属郡高山町野崎に所在する東田遺跡出土の石庖丁である。東田遺跡は肝属川によって形成された沖積平野の一角で肝属平野の東南部端の水田地帯内にある。X層暗茶褐色の砂層が遺物包含層で縄文時代後期末～古墳時代の遺物が出土している。石庖丁と同時期の遺物としては弥生時代中期末～後期終末の甕形土器(山之口式)と壺形土器が出土している。

資料No 8は日置郡東市来町美山に所在する池之頭遺跡より出土した石庖丁である。池之頭遺跡は美山池の北西部の標高80～100mのシラス台地の尾根状部分に立地しており江口川と神之川のほぼ中央部にあたる。石庖丁はⅢa層暗茶褐色火山灰土より出土し、同時期の遺物として甕形土器や壺形土器、磨製石鏃等が出土している。

石庖丁の形態と大きさの分類は(斎野 2002)に従った。

今回の資料について説明すると、Ⅲが磨製を表し、C₂類は無扶有孔で孔数が2個、D₂類は有扶有孔で孔数が2個という意味を表す。また、1種は無側、2種は有側とし、a種は直背弱凸刃、c種は弱直背弱凸刃、e種は弱直背凹刃を表している。大きさの分類は全長18cmと12cmを境に大型、中型、小型と分類している。

3 分析方法

使用痕とは石器が使用されることによって表面に残されるさまざまな痕跡のことであり、肉眼で観察できる大きなものから、電子顕微鏡でなければ検出できないようなキズまでさまざまなスケールのものがある。使用痕は①微小剥離痕、②光沢、③線状痕、④摩滅、⑤破損、⑥残滓に分類でき、石器の表面にはこれらの使用痕が複雑に組み合わせられて構成されることが多い(阿子島 1989)。

今回の分析はキーリー(1977)による高倍率法を用い、基本的に梶原・阿子島(1981)、阿子島(1989)の行った実

光沢のタイプ	輝度		平滑度		拡大度	高低差	接続度	その他 (線状構造・段状構造・群孔構造)
	外部コントラスト	内部コントラスト	きめ	まるさ				
A	きわめて明るい	強い (暗部島状に残る)	なめらか	まるい	内部まで一面に広がる	高所からはじまり、全面をおおう	一面をおおいつくす	埋められた線状痕 碁星形の凹み
B	明るい	強い (パッチ状の光沢部)	なめらか	パッチが きわめてまるい(水滴状)	広い	高所から順に発達する、低所まで及ぶのはまれ	ドーム状のパッチが接続していく	パッチが線形に連結、ピットは少ない
C	やや明るい	やや弱い (網状の光沢部)	粗い	凹凸鋭い(そいだよう)	広い	低所の凹部を残して、中・高所に一様に広がる	パッチとして発達せずはじめから網状につながる	大小の無数のピット
D1	明るい	弱い (一様)	なめらか	平坦(はりついたよう)	限定される	微凹凸の高低がなくなる	縁辺に帯状の狭い面ができる	「融けた雪」状の段を形成、ピットが多い
D2	明るい	やや弱い (平行溝状)	やや粗い	峰状で鋭い	限定される	微凹凸は変形して線状になる	縁辺に帯状に狭い面ができる	鋭い溝状の線状痕、ピットが多い
E1	やや明るい	強い (小パッチ状)	小パッチのみ なめらか	小パッチはややまるい	縁辺のみの狭い分布	高所の小パッチは明るく、低所は原面の微凹凸のまま鈍く光る	小パッチが独立して連結しない	周囲の鈍い光沢(F2)とつねにセットで生じる
E2	鈍い	やや弱い	ごく微細に凹凸 (つやけし状)	光沢部全体が 摩滅している	広い	なし(高低所とも同様に光る)	強度の摩滅を伴って縁辺に広く光沢帯が形成	多様な線状痕が多い、多くの微小円形剥落
F1	鈍い	弱い	粗い	角ばっている	多様	なし(高低所とも同様に光る)	原面の微凹凸を変えず低所まで及ぶ	脂ぎったざらつき
F2	きわめて鈍い	弱い	原面を変えない	原面を変えない	多様	多様	未発達な小パッチ	原面を変えない

第3表 ポリッシュの各タイプの特徴(阿子島 1989)